

“メタボライジング”をテーマとした新しい居住スペース、居住スタイルのアイデアを募集するコンペティション
『SUS「t²住むためのプロダクト」Competition'15』受賞作品決定

FA 向けアルミ製機器製品および機械装置の設計開発、製造、販売会社である SUS 株式会社（本社：静岡県静岡市 代表取締役社長：石田保夫 以下、SUS）が開催した、アルミ製居住ユニット『t²（ティーツー）』^{※1} を用いた新しい居住スペース、居住スタイルの提案コンペティション『SUS「t²住むためのプロダクト」Competition'15』の受賞作品が決定しました。なお、12月4日（金）に恵比寿ガーデンプレイス内、ウェスティンホテル東京にて授賞式を行います。

本コンペティションは、「メタボライジング」をテーマに、「増やせる。減らせる。動かせる。」という特徴を持つ“住むためのプロダクト”『t²』を使って、居住の新しい概念を考えるコンペティションです。

和田智氏（カー&プロダクトデザイナー／SW design 代表取締役 CEO）、マーク・ダイサム氏（建築家／クライン ダイサム アーキテクト代表）、金田充弘氏（構造エンジニア／東京藝術大学美術学部准教授／Arup 東京事務所）に、石田保夫（SUS 代表取締役社長）を加えた4名の審査員により、最優秀賞1点、優秀賞1点、佳作5点が選ばれました。

最優秀賞「部屋を持ち運びながら移り住む」は、永きに渡って市場で取引され続ける t² を想定した提案です。これまで住宅は古くなれば価値も減じるものでしたが、この作品はカスタマイズやメンテナンスを繰り返しながら住み続けることで、t² にヴィンテージ品のような価値を創出させようという提案で、住宅に対する新しい価値観を提示したことが評価されました。



最優秀賞「部屋を持ち運びながら移り住む」イメージ図

また、優秀賞は、施設の老朽化や陳腐化が問題となっている集合住宅を、t² を使ってリノベーションする案で、現在、日本が直面するニュータウンの問題などを解決する実効性が評価されました。

SUS では、この度ご応募いただいた作品を実現化できるよう、今後も『t²』をはじめとするアルミの進化に向けて技術開発を進めるとともに、『t²』の販売と普及を通して、居住に対して新しい価値観を提供していく考えです。

【本件に関するお問い合わせ】

SUS東京広報センター（アズ・ワールドコム ジャパン内）担当：水谷、星野 / 電話：03-5575-3228
SUS株式会社 広報担当：関口 / 電話：03-5652-2393

■受賞者一覧

賞	賞典	作品タイトル	作者
最優秀賞	100万円	部屋を持ち運びながら移り住む	植木貞彦(日本設計)
優秀賞	30万円	t ² meets Danchi “ヤドカリズム”	黒崎涼太(本田技術研究所) 須藤大志(本田技術研究所) 山川陸(グリ設計)
佳作	10万円	駐車場に住む	布目和也(Studio N)
佳作	10万円	t ² MULTI HABITATION LIFE	安田剛(シグマ建設シグマー級建築士事務所)
佳作	10万円	中銀カプセルの更新	上田憲二郎(上田憲二郎建築事務所)
佳作	10万円	関係人口の拡大を図る	小海諄(日本大学理工学部海洋建築工学科) 大川薫平(同) 佐久間大和(同)
佳作	10万円	t ² CELL CITY — ever changing construction	Cheveneau Ohashi Architect & 池宮城 薫

■『SUS「t²住むためのプロダクト」Competition '15』実施概要

募集テーマ: **メタボライジング** t²住むためのプロダクトによる新しい居住の形

アルミ製ミニマル居住ユニット t² を用いた新しい居住スペース、居住スタイルの提案を募集します。キーワードはメタボライジング。「増やせる。減らせる。動かせる。」という t² の特徴を最大限生かすことがテーマとなります。使用するユニットの数に制限はありません。敷地についても限定はせずに、郊外、都心の住宅地はもちろんのこと、街区や都市、国土全体を対象とした計画でもよいこととします。また、居住する対象も、個人であろうと、家族であろうと、もっと別の集団であろうと構いません。「いま」という時間、「ここ」という空間にとらわれない居住の新しい概念を提案してください。

応募期間: 2015年9月1日(火)~30日(水)

審査委員: 和田 智 (カー&プロダクトデザイナー/SW design 代表取締役 CEO)
マーク・ダイサム (建築家/クライン ダイサム アーキテクト 代表)
金田 充弘 (構造エンジニア/東京藝術大学美術学部 准教授/Arup 東京事務所)
石田 保夫 (SUS 株式会社 代表取締役社長)

審査方法: 上記審査委員による書類選考

賞 典: 最優秀賞 (1点) 賞金 100万円
優秀賞 (1点) 賞金 30万円
佳作 (5点) 賞金 10万円

※優秀賞2点、佳作3点の予定でしたが、審査の結果、優秀賞1点、佳作5点を選定いたしました。

主 催: SUS 株式会社

■審査員総評

和田 智 氏（カー&プロダクトデザイナー／SW design 代表取締役 CEO）

『t²』が建築とプロダクトの中間に位置することを意識した提案が示されていると感じました。しかし、一方で居住以外のファクターと『t²』とを結びつけるアイデアが希薄であったことは残念です。

『t²』とトランスポーターを結びつける提案もありましたが、アイデアとしては弱いものでした。『t²』はすでに形をもっているわけですから、それを前提とした新しいライフスタイルの提案など、飛び抜けたアイデアの展開を見たかったと思います。また、アイデアとは別にプレゼンテーションのレベルをもっと上げないといけません。アルミは冷たい印象になりがちです。どのように人間味を加えるかを強く意識することで、現代的なデザインになるとと思います。

マーク・ダイサム 氏（建築家／クライン ダイサム アーキテクト 代表）

建築デザインではバランスやコントラストが重要になります。重さと軽さ、カラーとモノクロ、古さと新しさ。最優秀賞作品と優秀賞作品は、ともにバランスやコントラストに秀でていました。コンクリートや既存の集合住宅の存在が、『t²』の軽さやアルミの質感を引き立たせることに成功しています。これは『t²』の今後にとっても重要なテーマです。カラーも同様。アルミという素材がモノトーンな印象になりがちであるのに対して、最優秀賞作品では『t²』が使われてきた時間が生む価値をカラフルな色彩で表現することで、これまでの『t²』とは異なるイメージが生まれました。なお、佳作を受賞された『中銀カプセルの更新』※はぜひ実現してほしいと思いました。

金田 充弘 氏（構造エンジニア／東京藝術大学美術学部 准教授／Arup 東京事務所）

「『t²』ならではの提案であるか」、「新しい価値観を生み出しているか」、「今の時代にマッチしているか」という3つの観点から審査をしました。最優秀賞作品と優秀賞作品はともに「『t²』ならでは提案」ですが、特に前者は「新しい価値観」を、後者は「今の時代」を意識した提案です。これまで古くなればそれだけ価値が下がると考えられていた住居を、最優秀作品では、古着のように「住み続けることで価値が高まる」と定義し直しました。もっと“使い込まれたけどカッコいい”というプレゼンテーションにすると、その点が際立ったかと思います。優秀賞作品は、社会問題をすぐにでも解決しうる実践的な作品だと感じました。

※この案は、建築家の故・黒川紀章氏が設計した、メタボリズムの象徴でもある中銀カプセルタワービル（1972年竣工）を t² によってアップグレードするというものです。作者の上田憲二郎さんは、元黒川紀章建築・都市設計事務所の所員であり、中銀カプセルタワービルの設計チーフとしてこの作品の実現に尽力されたとのことでした。

■受賞作品紹介

<最優秀賞>

受賞者：植木貞彦(日本設計)

作品名：部屋を持ち運びながら移り住む

作品説明：t²の最大の特徴は「部屋を持ち運べること」であり、住宅が「不」動産ではなくなった新しい住まいの風景が提案できると考えました。

この新しいユニットは部屋をまるで車や家具のように移動させることを可能とし、それに伴い住宅を取り巻く社会システムを大きく変化させます。部屋は容易に取り替え可能なものとなり、また容易に取引可能なものとなります。役目を終えた部屋は、他者に譲渡し、または中古品として市場で売買することが容易になり、結果として住宅の流通システムが大きく変化します。

居住者はまるで車を選ぶように、好みの配色の t² を選択し、自由にカスタマイズし、メンテナンスを加えながら住み続けます。その過程で t² には居住者の個性が反映され、個々に多様な様相を見せ始めます。永きに渡って市場で取引され続ける、ヴィンテージ品も登場するかもしれません。

t² を收容するマンションは、まるで立体駐車場のようスケルトンのみを提供し、その中身である部屋=t² は常に入れ替わり続けます。エイジングを重ねるスケルトンと、常に入れ替わり続ける t² が組み合わせられることで、新旧の要素が渾然一体となった新しい住まいの風景が生まれます。



部屋を持ち運びながら移り住む

『t²』の最大の特徴は「部屋を持ち運べること」であり、住宅が「不」動産ではなくなった新しい住まいの風景が提案できると考えました。この新しいユニットは部屋をまるで車や家具のように移動させることを可能とし、それに伴い住宅を取り巻く社会システムを大きく変化させます。部屋は容易に取り替え可能なものとなり、また容易に取引可能なものとなります。役目を終えた部屋は、他者に譲渡し、または中古品として市場で売買することが容易になり、結果として住宅の流通システムが大きく変化します。

居住者はまるで車を選ぶように、好みの配色の t² を選択し、自由にカスタマイズし、メンテナンスを加えながら住み続けます。その過程で t² には居住者の個性が反映され、個々に多様な様相を見せ始めます。永きに渡って市場で取引され続ける、ヴィンテージ品も登場するかもしれません。

t² を收容するマンションは、まるで立体駐車場のようスケルトンのみを提供し、その中身である部屋=t² は常に入れ替わり続けます。エイジングを重ねるスケルトンと、常に入れ替わり続ける t² が組み合わせられることで、新旧の要素が渾然一体となった新しい住まいの風景が生まれます。

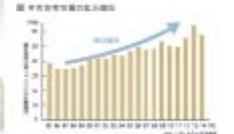


図 2 住宅流通率の向上



図 100 住宅流通率の向上

<優秀賞>

受賞者：黒崎涼太(本田技術研究所)、須藤大志(本田技術研究所)、山川陸(グリ設計)

作品名：t² meets Danchi “ヤドカリズム”

作品説明：私たちは、今回のテーマである【メタボライジング】を実現するためには、単に新しい住空間を創造するのではなく、既存の住空間にさらなる魅力を加え、常に時代に合った形態へと更新されていく継続性を持たせることが必要だと考えました。

そこで、国策によって整備された良好な住環境を持ちながらも、現在では世代循環と設備更新の停滞による住人の高齢化、インフラの老朽化といった課題を抱える【団地】と、ミニマルで新しい居住モジュール【t²】を組み合わせ、元々は均一であった住戸にさまざまなバリエーションをつくり出すことで、「スクラップ&ビルド」に頼らず、幅広い世帯・世代に向けた「自由な間取り」を提案します。

さらには、【t²】の「増やせる、減らせる、動かせる」という特徴を活かすことで、今後も変化し続けるライフスタイルに、【団地】という歴史ある住空間を適応させ続けることが可能となり、建築の「過去・現在・未来」を連続的につなぎながら、循環性を持ち続ける【メタボライズ】な住まいを実現できると考えています。



<佳作>

受賞者: 布目和也(Studio N)

作品名: 駐車場に住む



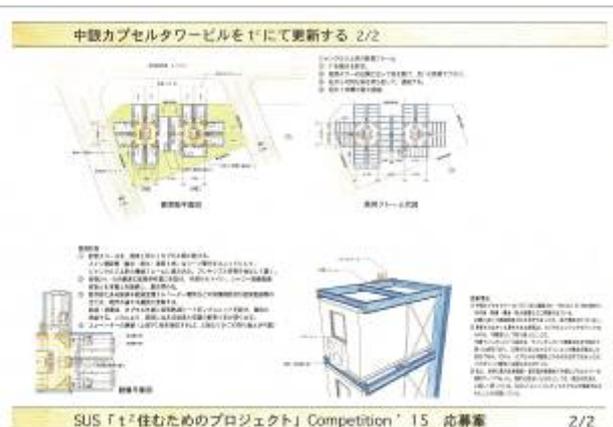
受賞者: 安田剛(シグマ建設シグマー級建築士事務所)

作品名: t² MULTI HABITATION LIFE



受賞者: 上田憲二郎(上田憲二郎建築事務所)

作品名: 中銀カプセルの更新



■『t²』について

『t²』は、移設可能なアルミ製ミニマル居住ユニットです。SUS は、アルミが建築構造材として認可された2002年より、同素材を用いた建築構造物の設計、開発に取り組んでいます。建築部材としてのアルミの可能性を追求すべく、さまざまなアルミ建築を手掛ける中で培った経験をもとに開発されたのが、『t²』です。住まいという概念を“プロダクト化”することで、生活環境の変化に合わせて住まいを代謝させるという新しいライフスタイルを提案する製品で、アルミの特性であるリユース・リサイクル性の高さに加え、移設や移動の容易さ、自由度の高さを兼ね備えています。



t² ユニット外観



t² ユニット内観



SUS 静岡事業所実験棟

■SUS(エスユウエス)株式会社 概要

- 本 社： 静岡県静岡市駿河区南町 14-25 エスパティオ 6F
- 設 立： 1992年6月19日
- 資 本 金： 2億9,000万円
- 売 上 高： 206億5,400万円（2015年2月期連結売上 単体では175億7,400万円）
- 従業員数： 654名（2015年10月1日現在）
- 事業内容： FA向け機械装置およびユニット機器製品の設計開発・製造・販売。
アルミ製住宅および建築用アルミ構造材の設計開発、製造販売。
アルミ製家具およびアルミ建材の製造販売。